

2024年11月20日（水）

老球の細道839号

### 結果を思わぬこと、それが行動力のコツだ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

孫のバスケットもようやくシュートができるようになった。積極的にトライすれば試合でもシュートが打て、入るのも夢ではないように思えるようになってきた。しかし、先日のミニバスウインターカップ地区予選では1本もシュートが決められず負けてしまった。

失敗することを恐れる孫娘に私は適切なアドバイスができなかった。そんな時以前書いていたコーチングノートにフランス文学者で評論家の辻邦生（故人）の文章を見つけた。

【何もしないうちから「そんなのできないよ」と言ってやろうとしない子どもがいる。できないのではない。失敗を恐れてやろうとしないのだ。失敗したら笑われるし、カッコ悪い。そんな自分が許せない。傷ついた自分を認めたくない。だからやる前から自分を守ろうとして動かない。

大人も同じだ。面倒だ。失敗したらどうしよう。責任はとりたくないなど。しかも、起こりもしないことをあれこれ思いわずらい、動けない。

こんな生き方では面白いことも楽しいことも生まれえない。命にかかわることや、全財産を失いかねない賭けなどはやらないほうが賢明だが、望んでもできないことをやろうと努めるのもその人の生き方であり、反対する理由はない。しかし、ちょっと努力すれば手に入るかもしれないことに挑戦しないのは、自分の可能性を捨てているのに等しく、もったいないと言わざるを得ない。

もっとも、望んでできることでも「やればできるさ」と言ってやらないのでは、できないのと同じことだ。

失敗したっていいじゃないか。自分の思うような結果が得られなくとも、全力を尽くしたのなら自分を責めることはない。やろうとしたことが自分に向いていなかったことが証明できたのだから、それはそれでいいではないか。恥じることはない。

何でもいい。自分の好きなもの、やりたいことに打ち込めればいい。その姿勢を持続できれば豊かな人生が待っているだろう。大切なことは、できないこととしないことを混同しないことだ。文豪ゲーテも「汝の人生を行為に次ぐ行為たらしめよ」と言っている。【一歩前に出よう】

人間は成功よりも失敗から学ぶ。バスケットボールは失敗（ミス）のスポーツである。シュートも3割から4割くらいしか入らない。6割から7割は失敗である。敗戦からたくさん学ぶことができる。次に高くジャンプするためには、いったんしゃがまなければならない。そして負けた直後には前を向かせることが必要である。向かうべき次なる目標があってこそ反省ができる。孫たちのチームは敗戦の翌日から次なる大会へ向けて練習をスタートさせた。

「タイムアップの笛は、次の試合へのキックオフの笛である」〈デッドマル・クラマー〉